

平成 28 年度 第 1 回 栄区傷害サーベイランス分科会 議事要旨

<全体講評>

- ・アウトカムにかかるデータは項目別にきちんと出さなければ、審査員の指摘を受ける可能性がある。
- ・横浜市の教育委員会に働きかけて、学校に関するデータを出してもらえるよう協力を呼びかける必要がある。
- ・医療機関等に、より精緻なデータの提供を求めていって欲しい。
- ・事故対策を考えていく上で、場所という側面から考えていくことも必要。
- ・分科会ごとに主体となる人の明確化をして、その人に向けた取組を実践する必要がある。
- ・地区との関係（コミュニティ）を意識して取組に入れられると良いのではないかな。
- ・再認証に向けて、セーフコミュニティの認証を受けてからどう変わったかをアウトカムで証明・立証する必要がある。

<分科会への評価・助言要旨>

①栄区概要

- ・セーフコミュニティ導入経緯について、色々な取組がある中で、高齢者のみに焦点を当てて導入経緯と言って良いのか。

②こども安全対策分科会

- ・救急搬送データについては、実際にけがを減らすという観点から考えると、内訳をきちんと見ることが重要。
- ・取組開始以前の救急搬送データまで出さなければ、取組導入前後の変化を比較することができない。
- ・養育者への啓発の取組の中で、事故対策を「行っている」人の割合については、様々な事故の種類
の平均値なのか。事故の項目別に取り上げていったほうが効果的に対策できるのではないかな。

③スポーツ・余暇安全対策分科会

- ・ウォーキングだけにウエイトを置いていると評価が難しいので、予防講習会のような取組を発展させていく必要がある。
- ・予防講習会の参加者に対して、講習会に参加する前後で意識の変化を見るための事前・事後アンケート等を行っているのか。現在、アウトプットの指標が多いので、できる部分からアウトカムや意識の変化を示せるようになると良い。
- ・運動中の事故・けがの対象者の年代については、20代未満が最も多いが、ウォーキングポイント事業を利用しているのは60代以上が7割になっている。事故・けがの実態と取組がリンクするように、また、取組があらゆる年代に及んでいるということが見えるようにしなければならない。
- ・部活中の事故についてもどこかの分科会で取り上げるべき。子どもたちの事故がどのように増えたかについては、救急搬送データだけではなく、学校で把握している保険のデータでも分かる。
- ・ウォーキングの取組について、ステップ3の評価を運動競技中の事故における救急搬送データで行うのは適切なのか。

④交通安全対策分科会

- ・子どもの交通事故への対策について、子どもとは何歳までを想定しているのか。中学生は取組の対象から外れているのか。
- ・交通事故のデータについては、自分1人で転んだ時など、警察が把握していない場合もあり、損害保険のデータも併せて見る必要がある。警察のデータしか使用していないことについて、審査の際に聞かれる可能性がある。また、病院や学校で把握しているデータも見る必要がある。
- ・スクールゾーンの取組の中で、道路改良した場所について車のスピードを測っていることは評価できる。車がぶつかるスピードによって、亡くなる方の割合も変わってくる。
- ・道路改良後の車のスピードについて、前後比較ではスピードが下がっているのかも知れないが、制限速度30キロの地点でそれよりはるかに速い最高速度が出ていることについてはどのように捉えているのか。スクールゾーンなので、改善後の結果についてもまだまだだという見方もできる。
- ・未就学児のヘルメットの着用について割合が飛躍的に上がっているので、小中学校についてもこの取組をきちんと行い、教育委員会の協力を得た上できちんとデータを取得していけば評価される。
- ・住宅地等で歩車共存の道路の作り方は様々な形で実証されてきているので、できるだけ色々なものを試すことができると良い。
- ・なぜモデル地点にこの2箇所が選ばれたのかを記載した方が良い。

⑤児童虐待予防対策分科会

- ・EPDSの実施結果について、7月末時点で支援の必要な方の割合が106人中17人と高いのが気になる。
- ・虐待のリスクが高い人をいかに把握するのかということは前回のポイントともなったところなので、その解釈を大切にしてもらいたい。
- ・アウトプットの評価が多い印象を受ける。

⑥高齢者安全対策分科会

- ・ヒートショック対策について、住民の代表が積極的に取組に関わってきたプロセスをうまく PR できると良い。
- ・高齢者の虐待について、事前指導の際に聞かれる可能性があるのでどこかに入れた方が良い。
- ・認知症サポーターの人たちが当事者とふれあう機会を持ち、その回数を測定するなどの指標を入れてはどうか。
- ・高齢者ドライバーの事故が多いことについては、課題として認識しているか。
- ・免許の返納を検討する背景として、生活支援のことも考えていかなければならない。

⑦災害安全対策分科会

- ・地震時の避難について焦点を絞って記載されているが、大雨で避難準備情報が出た際に要援護者の人たちが避難できる状況になっているのか。また、避難訓練には要援護者の方も参加しているのか。
- ・地形的に見て、崖崩れなどは起きる状況なのか。また、崖崩れが起きた際に危険な箇所にいる区民は、全体の中でどのくらいの割合なのか。
- ・地震の際の要援護者の人数は示されていたが、大雨の際はどのくらい要援護者が発生するのか。

⑧自殺予防対策分科会

- ・栄区では全国と比べて自殺者数が減っていないように見える。自殺者数を減らすために、どこに焦点を当てるべきだと考えているのか。
- ・ハイリスクの中にも色々あるが、年齢や性別、職業等で見た時に、全国と比較してどのような特徴が表れているのか。

⑨防犯対策分科会

- ・高齢者に対する振り込め詐欺への対策については、後見制度が使えることなどを周知していくことも重要。

⑩傷害サーベイランス分科会

- ・学校関係のデータについては、教員委員会からの協力を得て使用する必要がある。